

# 平成 29 年度 森林総合研究所九州地域公開講演会 開催報告

開催日時：平成 29 年 10 月 18 日（水）13 時 30 分～16 時 30 分

開催場所：くまもと県民交流館パレア 10 階パレアホール（熊本市中央区手取本町 8-9）

テ ー マ：「木材・バイオマスの新しい利用のために」

参加者数：119 名

## 発表者

### ○九州支所 産学官民連携推進調整監 田中 良平

#### 木質系バイオマス資源の活用—竹成分の分離と利用—

〔要旨〕 木質系バイオマスには有用な資源であるにもかかわらず、まだまだ未利用のものがたくさんあります。九州をはじめとする日本各地で利活用が課題となっている竹もその一つ。森林総研ではバイオリファイナリーを目指して竹の成分を分離して利用するための基礎研究に取り組み、そこから様々な技術が生み出されました。

### ○森林総合研究所 構造利用研究領域長 軽部 正彦

#### CLT 変える日本の建築市場—新しい木質材料が生かす豊かな国内森林資源—

〔要旨〕 CLT（直交集成板）を始めとして、新しい木質材料とその使い方が、日本の建築市場を賑わしています。新しい木質材料と、それを使った建物を紹介しながら、木材利用のポイントをご紹介します。

### ○九州支所 支所長 木口 実

#### エクステリア木材による木の街づくり

〔要旨〕 ・多くの人は木材を使った建築物、外構材に好感を持っているので、外構材のように目に見えるところ、人が触れるところに木材を使う「木の街づくり」  
・その際、耐久性、耐候性、維持管理、強度性能、防耐火性、コスト等についての負のイメージを改善することが重要  
・そのため、高性能木質建材の開発や市場投入、灰色化した木材の利用、エクステリア木材を使うことによるプラスα効果等を PR

### ○九州育種場 育種技術専門役 大塚 次郎

#### コウヨウザンの我が国における造林樹種としての可能性

〔要旨〕 コウヨウザンは、原産地の中国中南部では最重要造林樹種の一つで、強度が必要な建築材などに広く利用されています。国内の造林地 10 箇所以上の調査の結果、すべて成林し、旺盛な成長を示す林分、個体が多く見られました。

さらに萌芽が旺盛でさし木での苗木生産が容易なため、優良な系統を選抜、利用することで材質・成長に優れた新たな造林樹種として大いに期待されます。



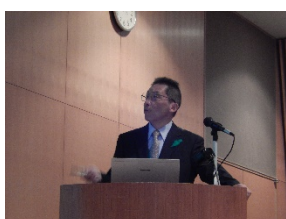
開会挨拶



会場内の様子



パネル展示



発表者（田中）



発表者（軽部）



発表者（木口）



発表者（大塚）